

石巻専修大学

石巻専修大学「ホームページ」 <http://www.senshu-u.ac.jp/shimoneki/>

代表電話番号
0225 (22) 7711
広報専用FAX
0225 (22) 7809

キャンパス内全天候型陸上競技場 400メートルトラック新設

キャンパス内の全天候型陸上競技場に400メートルトラックが新設された。従来の赤色の300メートルトラックの外周に設置された新トラックは、青色で直走路6レーン、曲走路4レーン。表層部分は、国際陸上競技連盟認定舗装材の全天候型舗装材「トップエースCB」が使用されている。ゴムチップ層とウレタン層の複合タイプで、厚さは13

ミ。適度なクッション性と反発力が安定した走行性を実現し、腰やひざへの負担を軽減する。授業や課外活動など、大学の教育活動施設として活用されるほか、地域に開かれた大学という本学の特色を生かし、市民のスポーツ活動の場としても提供される。

8月30日にはオープンニングセレモニーがあり、坂田隆学長、山崎省一人間学部長(陸上競技部顧問)、指方研二学生部長ら本学関係者、境直彦石巻市教育委員会教育長、針生聡宮城陸上競技協会副会長ら来賓が参列。代表者によるテープカットが行われた。

引き続き、地元の小・中学生を対象とした記念イベント「楽しく走ろう教室」が実施された。参加者たちは、本学女子競

走部の泉田利治監督の指導を受けながら、新しいトラックの感触を確かめた。大学・高専の部で、

理工学部機械工学科の自動車工学コースで学ぶ学生たちが、2つの大会に参加し、日ごろの研究の成果を試した。

山本憲一研究室の学生10人は、自動車技術会東北支部学生自動車研究会主催「第26回手作り自動車省燃費競技大会」(9月5日、仙台市・宮城県運転免許センター)に出場。大学・高専の部で、

川島純一研究室の学生9人は「2015電気自動車エコラン競技大会」(8月23日、宮城県村田町・スポーツランド菅生)に出場した。

この大会は、自作の電気自動車で、1周3・7キロのコースを2時間で何周できるか、周回数を競った。

6回目の出場となった川島研究室は3年ぶりの優勝に向けて「ピュアワン8号」を作製。テストラ

ンを繰り返して大会に臨んだが、レース途中でタイヤがバースト。オートパークで15位だった。

理工学部生物学科のム部(女川フィールドセンター)を拠点に活動。3年次生たちは、佐々木洋教授、松谷武成教授、太田尚志教授と実習補助の4年次生5人の指導を受けながら活動した。女川湾では乗船実習が行われ、船上での作業は初めて、少しきついところもありましたが、とても楽しく、充実した実習で学んだことを、今後の研究に生かしていきたい」と話した。

八重柏わかさん(岩手県一関第一高)は「乗船実習を通して、海のさまざまな生物を多方面から観察することができました。船上での作業は初めて、少しきついところもありましたが、とても楽しく、充実した実習で学んだことを、今後の研究に生かしていきたい」と話した。

日本学術振興会が主催する「ひらめき☆ときめきサイエンス」の一環として、理工学部の中川蘭助教が、高校生を対象としたプログラム「花のかたちはどう決まる? 遺伝子から迫る花のデザイン」(8月9日、本学5号館)を開催した。

参加した高校生12人は、多種さまざまな花の観察を通して花の多様性と共通性を理解した後、モデル植物であるシロイヌナズナのABC変異体の観察を行った。さらに、観察結果を基に花器官の形成モデルを考えるグループディスカッションを行い、遺伝子が花器

を形成にどのような影響を与えているかを考察し発表した。

「青少年のための科学の祭典2015石巻大会」(主催・「青少年のための科学の祭典」石巻大会実行委員会/公益財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館)が8月9日、本学キャンパスで

開催された。子どもたちを中心に延べ約1100人が来場し、さまざまな実験を通して、科学の楽しさを体験した。

同祭典は全国各地で開催されており、本学では2001年に初開催された。15回目となる今回は、宮城県内の小中学校、大学や研究機関などが38タイトルの実験・工作教室を展開した。

本学からは理工学部の教員や学生が、「ロボットのプログラムを組んで迷路をクリアしよう」(情報電子工学科)や「ヒゲカビってどんなカビ?」(宮崎厚研究室)など趣向を凝らした6つの実験を用意。子どもたちは学生の手ほどきを受けながら実験を楽しみ、発見や驚きに興奮した様子だった。

本学が運行する「自宅通学サポートバス」の路線が、9月24日(後期授業開始日)から変更となる。



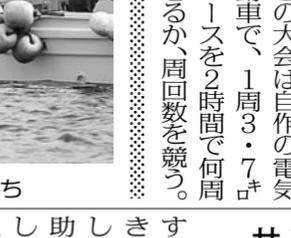
乗船実習で生物採取に取り組む学生たち



遺伝子の影響を説明する中川助教



山本研究室(前列左端が山本教授)と学生たち



川島教授(左端)と学生たち

2015 石鳳祭

メインテーマ **咲(さく)**

10/10(土)
※ホームカミングデーを同時開催

11(日)

フリーライブ(10日)にお笑い芸人「**ゴージャス**」が登場。
石鳳祭LIVE(11日)のゲストはガールズバンド「**Silent Siren**」。

・石鳳祭HP~2015~
・石鳳祭実行委員会2015(Twitter)
で最新情報を公開中!!

運行路線変更 サポートバス

本学が運行する「自宅通学サポートバス」の路線が、9月24日(後期授業開始日)から変更となる。

5月30日のJR仙石線全線開通、JR仙石東北ライン新規開通を受け、東日本大震災後から追加運行されていた多賀城便、鹿島台便の運行を停止。今後は震災前と同じ4便(県北便、古川便、一ノ関便、北上便)に戻る。各便の運行ダイヤは、本学ホームページ、学内掲示板などでご確認ください。



泉田監督が子どもたちを指導(楽しく走ろう教室)

自動車工学コース・2研究室 競技会で成果試す

理工学部機械工学科の自動車工学コースで学ぶ学生たちが、2つの大会に参加し、日ごろの研究の成果を試した。山本憲一研究室の学生10人は、自動車技術会東北支部学生自動車研究会主催「第26回手作り自動車省燃費競技大会」(9月5日、仙台市・宮城県運転免許センター)に出場。大学・高専の部で、

川島純一研究室の学生9人は「2015電気自動車エコラン競技大会」(8月23日、宮城県村田町・スポーツランド菅生)に出場した。

この大会は、自作の電気自動車で、1周3・7キロのコースを2時間で何周できるか、周回数を競った。

科学の祭典 子どもたち楽しさ体験

「青少年のための科学の祭典2015石巻大会」(主催・「青少年のための科学の祭典」石巻大会実行委員会/公益財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館)が8月9日、本学キャンパスで

開催された。子どもたちを中心に延べ約1100人が来場し、さまざまな実験を通して、科学の楽しさを体験した。

同祭典は全国各地で開催されており、本学では2001年に初開催された。15回目となる今回は、宮城県内の小中学校、大学や研究機関などが38タイトルの実験・工作教室を展開した。

本学からは理工学部の教員や学生が、「ロボットのプログラムを組んで迷路をクリアしよう」(情報電子工学科)や「ヒゲカビってどんなカ